



人にやさしく…。菅原隆運転士(写真)は、34年間、安全というハンドルを握ってきました

まもなく 最終バスが出ます。

長い間、市民の足を支えてきた市営バス。
秋田中央交通(株)にバトンを渡し、
3月31日、65年の歴史に幕を閉じます。
さようなら市営バス。ありがとう市営バス。



この姿も3月で見納め

市営バス(市交通局)の始まりは昭和十六年。土崎港町・寺内町・新屋町の三町、広山田村(現在の広面周辺)との合併があったその年、市内交通の基幹として誕生しました。発足当時は電車七両、バス十六台。市電は「チンチン電車」の愛称で親しまれ、乗合バスとともに市民の足として愛されました。

その後、道路網の発達により、交通の中心はバス、マイカーへと転化。昭和四十一年、市電は惜しまれながら廃止されます。

一方、市営バスの利用者数は大きな伸びを続け、最盛期の昭和四十四年には、一日平均八万五千人もの乗客を運びました。

また、観光事業も盛んとなり、市民を乗せた観光バスは、男鹿や田沢湖をはじめ、県内外の多くの観光地を巡りました。

好調に見えたバス事業が、マ

交通局 65年のあゆみ

<p>一九四一 (昭和16年) 電車七両、バス十六台</p> <p>一九五〇 (昭25) 電車発着を秋田駅前まで延長。一日の利用者数が五千人から一万人に</p> <p>貸切バス事業を開始</p> <p>建都三五〇年記念花電車を運行</p> <p>大晦日の花電車をもって市電の歴史に幕翌年三月に完全廃止)</p>	<p>一九五九 (昭44) バス事業最盛期。一日平均利用者数が八万五千人に</p> <p>買物回数券を発行</p> <p>世界初の試みとなる無線利用バスロケーションシステムを開発(運用は翌年から)</p> <p>二階建て貸切バスを導入</p> <p>乗り継ぎ回数券(全国初)と一日乗りほうだい乗車券を発行</p>	<p>一九六九 (昭44) バス事業最盛期。一日平均利用者数が八万五千人に</p> <p>買物回数券を発行</p> <p>世界初の試みとなる無線利用バスロケーションシステムを開発(運用は翌年から)</p> <p>二階建て貸切バスを導入</p> <p>乗り継ぎ回数券(全国初)と一日乗りほうだい乗車券を発行</p>	<p>一九八五 (昭60) 乗継回数券(全国初)と一日乗りほうだい乗車券を発行</p>
---	--	--	---



土崎停留所に到着した最終電車



マイタウンバス
西部線の愛称決定

“豊浜ふれあい号”

豊岩・下浜・浜田地区で、昨年10月に運行を開始したマイタウンバス西部線の愛称が決まりました。

このすてきな愛称は、伊藤真美さん(下浜中1年)が考えた「豊浜号」と、安田琳さん(豊岩中1年)が考えた「ふれあい号」を合体させたもの。

地域の確かな足として、より一層の活躍が期待されますね。



伊藤さん(左)と安田さん(愛称表彰式で)

4月1日に バスのダイヤ改正

4月からバスのダイヤが変わります。改正後の時刻表は、3月20日(月)から、秋田駅東口バス案内所、秋田駅前バス案内所、市役所バスコーナー、秋田中央交通(株)の各営業所・案内所でさしあげます。

また、市営バスの廃止にともない、4月1日から、泉秋操線、県立プール線、臨海営業所線(旧交通局線)は秋田中央交通(株)が運行します。

回数券の交換はお早めに

市交通局が発行した共通回数券(黄色)と高齢者専用回数券(オレンジ色)は、4月以降使えなくなります。早めに秋田中央交通(株)の回数券と交換してください。

なお、市交通局が発行した定期券と乗り継ぎ回数券は、有効期限までそのまま使えます。

問い合わせ

市交通局管理課tel(862)3891

秋田中央交通(株)tel(823)4413



広小路をチンチン、ゴー(昭和40年)



昭和28年ころの秋田駅前

あたたかい風景を演出
広小路を走る市電、秋田駅前の風景、たくさんのお客様を乗せたボンネットバス、観光事業を支えたバスガイドさんたち。市電とバスは、あきたの街をあたたく演出してきました。



愛きょうのある顔(昭和30年ころ)



花形スター勢ぞろい!(昭和30年代後半)

イカーに主役の座を奪われ始めたのは昭和四〇年代後半。バス利用者は減少の一途をたどり、平成十一年には利用者が一日平均二万七千人にまで落ち込みました。

バス事業の改革を進めてきた市は、平成十二年に秋田中央交通(株)と路線の移管に関する協定書を締結。以後、段階的に路線の移管を進めてきました。

最盛期には二百台近くあった路線バスも、現在は十一台。十四人の運転士が、三つの路線を運行しています。

今年四月、すべての路線を移管し、交通局は六十五年の歴史に幕を閉じることとなります。六十五年の間、市民の頼れる足となってきた市営バス。まもなく、最終バスが出ます。



現在運行している、泉秋操線(写真)、県立プール線、交通局線も4月には移管

一九九八(平10)
二〇〇〇(平12)
二〇〇六(平18)

観光事務・国内旅行業を廃止
秋田中央交通(株)と路線の移管に関する基本協定書を締結
すべての路線を秋田中央交通(株)に移管完了。市の交通事業を廃止